

別紙様式 2

授業科目名	漢字・漢語と社会	大学名	作新学院大学
科目区分	VU連携講座	開講時期	前期 (4月11日～8月1日)
学部・学科等	人間文化・心理コミュニケーション	曜日	火曜日
必修・選択区分	選択	時限 (時間)	4時限 (14時40分～16時10分)
標準対象年次	全学年	授業形態	講義
単位数	2単位	授業会場	作新学院大学
担当教員名	玉城 要		
電話番号 (代表者名)	028-667-7111	e-mail アドレス	
オフィスアワー	授業終了時に面談の予約を取ってから、質問や相談に応じる。		
授業の概要	<p><授業の目標及びねらい> そもそも日本語と無関係に発生した漢字や漢語について、私たちは日本語の中でどのように扱っているのか。それを「社会」、「コミュニケーション」という観点から考察するのがこの授業の目的です。</p> <p><前提とする知識・経験> このシラバスに書かれている事柄を読んで理解できるだけの日本語力があれば十分です。</p> <p><授業の具体的な進め方> 毎回、担当教員が準備した空欄補充形式の講義資料をもとに講義を行う。授業終了時こ、授業内容の確認、次回の授業の予備学習を兼ねた簡単なクイズを実施する。 ※オンライン授業の場合は、スライド資料のpdfファイルを提示する (音声、動画は含まない)。話ことばを意識した文字主体の資料とします。読めば十分に理解できます。学生は、毎回、授業終了時こ授業の内容に関連した簡単な課題を解答・回答する。</p> <p><授業計画> 第1週 漢字・漢語に対するイメージ……漢字・漢語は「日本の文化」と言えるか 第2週 「社会」は漢語か……じゃあ、「会社」は漢語か？ 第3週 「外来語」ってなんだろう……カタカナ語は外来語か？ 第4週 「当用漢字」を知っていますか……減らすはずが増えていく？ 第5週 新字体と旧字体の関係……「雪」を「雪」とする必要があるのか？ 第6週 名前と漢字……「かけるくん」に「いちごちゃん」 第7週 役所と漢字の関係……三つの役所のそれぞれの思惑 第8週 漢字を書く時代から打つ時代へ 第9週 「働」「効」…そんな漢字、どこで誰が使うのか？ 第10週 漢字を使いこなしていく日本人 第11週 漢字を使いこなしてきた日本人 その1 音読みの話 第12週 漢字を使いこなしてきた日本人 その2 訓読みの話 第13週 漢字を使いこなしてきた日本人 その3 和製漢語の話 江戸時代まで 第14週 漢字を使いこなしてきた日本人 その4 和製漢語の話 明治以後 第15週 身の回りに息づく漢語・漢文……えっ、こんな漢字アリですか？</p> <p><教科書・参考書・教材と入手方法> 指定なし</p> <p><成績評価法> 毎回の授業終了時に行う内容確認と準備学習用のクイズ (30%)、学期末の最終課題 (70%)の結果を総合して評価する。授業の2/3 (10回) 以上出席しないと評価の対象としない。(単位を取得できない。)</p> <p><教員からのメッセージ> 好き、嫌い、に関係なく、身の回りにあふれる漢字・漢語に興味を持つと、ちょっと人生が豊かになるかもしれません。</p>		